

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

三原市立南小学校 9教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	59	64	79	90	80	105	477	32	509
学級数	2	2	3	3	3	3	16	4	20

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	専科	A	A	推進	専科	A	B	C	A	A	A	A
5年2組 (担任：B)	B	専科	B	B	推進	専科	A	B	C	B	B	B	B
5年3組 (担任：C)	C	専科	C	C	推進	専科	A	B	C	C	C	C	C

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：D)	D	専科	D	D	推進	専科	E	D	F	D	D	D	D
6年2組 (担任：E)	E	専科	E	E	推進	専科	E	D	F	E	E	E	E
6年3組 (担任：F)	F	専科	F	F	推進	専科	E	D	F	F	F	F	F

#### 4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

##### <効果のあった取組>

###### ①授業の質の向上

毎時間の授業において

- ・ 同じ授業内容を複数回行い、指導の充実を図る。
- ・ 振り返りの徹底 (R80 の充実)

空き時間を活用して

- ・ 互いの授業を参観し学び合う。

授業研究において

- ・ 模擬授業形式で指導案を検討

教職員がA層B層C層に分かれてそれぞれの児童の立場で考える。



【児童振り返り R80】



児童が、学びを整理したり、言語化してまとめたりする力の向上をめざしR80での振り返りを行っている。児童の振り返りから、次の授業の導入や授業改善に生かしている。

よさを学ぶだけではなく、「自分だったら」と代案を持ちながら参観することを大切にしている。参観後は、「自分の授業で取り入れたいこと」を書き、授業者とスモールトークをもつことで自分の学びを整理する。

###### ②多面的な児童理解

チーム南として

- ・ 学力補充、生徒指導事案等、複数の教職員で児童に関わる。(全教職員が学年所属)
- ・ 学級担任と教科担任の連携
- ・ 職員室での机の配置工夫
- ・ 職員室での何気ない会話を大切にする。
- ・ 週1回の職員連絡会5分間で「学習集団づくり研修」の実施

「聞いてね タイム」給食準備中に、低学年の児童を中心に繰り上がりや繰り下がりの計算、九九を唱え、担任外の教職員に聞いてもらうという取組。



###### ③小・中学校の円滑な接続

- ・ 管理職や生徒指導主事による定期的な連絡会や訪問
- ・ 中学校の研究授業へ参加
- ・ 中学校教諭による出前授業
- ・ 職場体験学習参加の中学生によるプレゼン発表会

中学生によるプレゼン発表会。中学校での生活の様子や今何を大切に過ごすことが必要なのかについて話をいただいた。



##### <成果>

###### ①授業の質の向上

- ・ 同じ授業内容を複数回行い、指導の充実を図る中で、教師の授業力向上とともに児童の学びに向かう姿勢が高まり、「分かる授業」へとつながっている。

「第1回教科担任制に関する児童アンケート結果より」

	R5 6月	R6 6月
教科担任制で学ぶことで、勉強の内容がよく分かるようになった (肯定的評価)	88.3%	95.9%
		+7.6

- ・教材研究や授業研究の際にも、学級担任だけではなく、深く関わる教職員が一人一人の児童の姿を思い浮かべ、個に応じた手立てを考えていき、授業の中で講じることができている。

Aさんは、ここで躓きそうだから、視覚支援をしていったらどうか。



Bさんは、単元に入るまでに、これを積み上げておいて、土台を揃えておくといね。

## ②多面的な児童理解

### 【教職員アンケート7月実施 「チームとして解決に取り組んでいる」肯定的評価 100%】

- ・教職員の意識が学級から学年へ、そして学校全体へ広がり、同僚性や組織で動く意識が高まった。
- ・職員室では、学年を超え、児童や生徒指導に関わること、授業改善につながる話題がたくさん挙がっている。
- ・複数の教職員で児童に関わることで、些細な児童の変化に気づき、それを早期共有、対応することで、積極的生徒指導にもつながっている。また、児童においても、悩みを学級担任だけではなく関わる教職員に相談することができ、心の安定につながっている児童もいる。

### 【第1回教科担任制に関する児童アンケート「教科担任制になってよかった」肯定的評価 95.4%】

～児童の声～

- ・たくさんの先生と出会い関わりが増えて、仲を深めることができ嬉しい。
- ・教科担任制になって、勉強が楽しくなった。
- ・担任の先生だけではなく、いろいろな先生に話ができ、分からないことはすぐに聞くことができる。

## <課題>

### ①授業の質の向上 ④教師の負担軽減

- ・初めてその教科を担当した教職員もおり、専門性を生かした学習指導の充実につながらない側面もある。

### 【第1回教科担任制に関する教職員アンケート「業務改善につながっている」肯定的評価 85.7%】

- ・教科によって事前準備が大変なこともある。また、裏で別のクラスの授業を行い、必ずしも空き時間とならず、業務改善につながらない側面もある。

## ②多面的な児童理解

### 「第1回教科担任制に関する児童アンケート結果より（肯定的評価）」

いろいろな先生と話す機会が増えた	分からないことや困ったことを相談できる先生が増えた
88.3%	79.6%

- ・「いろいろな先生と話す機会が増えた」においては、県平均を1.4ポイント下回り、「相談できる先生」においては、80%に至っていない。

### ③小・中学校の円滑な接続

### 【第1回教科担任制に関する教職員アンケート「中学校へのつながりを意識した授業を行っている」肯定的評価 71.4%】

- ・中学校での生活面だけではなく、学習面においてもつながりを意識した指導を行っていく必要がある。

## <対策>

### ①授業の質の向上 ④教師の負担軽減

- ・系統を踏まえた深い教材研究とともに、積み上げた実践を、互いに教え学び合いながら高まっていく温かい教職員集団を大切にしていく。
- ・教材教具の蓄積とともに、それを児童実態に合わせて改善し活用していく。

## ②多面的な児童理解

- ・「みんなで支え合い、みんなで育てる」の教職員の意識を高め、授業や授業外で一人一人の児童に寄り添った、より深い児童理解を図る。

### ③小・中学校の円滑な接続

- ・中学校教諭による出前授業において、生活面のみの指導だけではなく、各教科指導を計画的に仕組んでいく。また、教職員だけではなく、児童が中学校へ行き、授業参観したり授業を受けたりする場も設けていきたい。